

授 業 科 目 名	保育内容指導法 (人間関係)	教 員 名	山下 愛実	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	必修
授 業 形 態	演習	担当形態	単独	卒業要件	保育士	必修
科 目 番 号	FOI204	配当年次	2年後期		こども音楽療育士	
単 位 数	2単位			小幼コース	選択必修	幼保コース
科 目 目 録	領域及び保育内容の指導法に関する科目 (幼稚園)					
施 行 規 則 に 定 める 科 目 区 分 又 は 事 項 等	保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)					
一 般 目 標	<p>(1)領域「人間関係」のねらい及び内容 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>(2)領域「人間関係」の指導方法と保育の構想 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p>					
到 達 目 標	<p>(1)領域「人間関係」のねらい及び内容</p> <p>①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>②領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>④領域「人間関係」において、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)領域「人間関係」の指導方法と保育の構想</p> <p>①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>②領域「人間関係」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>③領域「人間関係」の指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤領域「人間関係」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>					
授 業 の 概 要	<p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>アクティブラーニングとして、振り返り、グループディスカッション、グループレポート、個人レポートなどを取り入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：講義概要の説明 (本講義の主旨および講義計画について)</p> <p>ワークショップ：「人とのかかわりの基盤となる乳幼児期」(目標(1)-①)</p> <p>第2回：保育の基本と人とのかかわり</p> <p>子どもたちが「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ための保育とは何かを考える。(①子どもからの出発、②幼児期にふさわしい生活、③環境を通しての教育、④遊びを通じた総合的指導、⑤個と集団を生かした指導) (目標(1)-①)</p>					

- 第3回：教育・保育要領にみる「人間関係」の「ねらい」や「内容」について
「ねらい」(①幼稚園・保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。②身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。③社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける)と「内容」および「内容の取り扱い」について理解する。(目標(1)-②,③,④)
- 第4回：乳幼児期における人とのかかわりの発達① 0歳児の発達と人とのかかわり
信頼関係を基盤とした愛着を形成させ、人見知り、共同注意、指差しなど、情動にもとづくコミュニケーションについての理解を深める。(目標(2)-①)
- 第5回：乳幼児期における人とのかかわりの発達② 1～2歳児の発達と人とのかかわり
信頼できる保護者や養育者との安全基地を育みながら、反抗期、共振、遊びの伝染など、この時期特有のコミュニケーションについての理解を深める。(目標(2)-①)
- 第6回：乳幼児期における人とのかかわりの発達③ 3歳児以上の発達と人とのかかわり
集団保育の中で、他の子どもとの出会い、仲間意識の強まり、いざこざの経験、共通の目的に向かって協同するという人とのかかわりについて学び、保育者として幼児期の人とのかかわりを支えていくかのスキルを学ぶ。(目標(1)-④,(2)-①)
- 第7回：遊びのなかで育つ人とのかかわり① 人とのかかわりと遊び
乳幼児期の遊びのなかで育つ人とのかかわりについて視聴覚機器などの情報機器を活用し分析・考察を行い、乳幼児期の子どもにとっての遊びの意味の理解、保育における遊びの大切さ、保育のなかの遊び・活動、遊びと発達、遊びと仲間関係など遊びを通した人とのかかわりについて理解を深める。(目標(1)-④,(2)-①,②)
- 第8回：遊びのなかで育つ人とのかかわり② 遊びのなかでの人とのかかわり
乳幼児期の子どもは、遊び成立条件と、触れ合うことの喜びと楽しさ、つながりを求める姿から、イメージを共有してつながろうとする、また、いざこざ・葛藤・仲直りを通してかかわりが深めていくことから、それら遊びを通した人とのかかわり方について理解を深める。具体的には、乳幼児期の遊びのなかで育つ人とのかかわりについて実践の画像や映像などを分析し、考察を行う。(目標(2)-①,②)
- 第9回：人とかかわる力を育む保育の実践
人とかかわる力が育っていくプロセスを踏まえて、子どもの気持ちを捉えつつ子どもたちの関係を育む保育実践について考え、実践を生み出すための視点を修得する。(目標(2)-⑤)
- 第10回：人とのかかわりが難しい子どもへの支援①
園で初めて体験する他人とかかわる生活への戸惑い、障がいの可能性などの理由で「人とのかかわりが難しい子」への支援の専門性が求められる。行動にはすべて理由がある、きっかけを探す、気持ちに寄り添う、代弁者になるなどの視点を持ち理解を深める。さらに、グループ毎に人とのかかわりが難しい子どもへの支援のあり方について考えた結果をスライドにまとめ、プレゼンテーションを行う。(目標(1)-④,(2)-①,②)
- 第11回：人とのかかわりが難しい子どもへの支援②
特に人とのかかわりが難しい子どもを持つ親は、自分を責めたり、事実を受け入れられなかったり、無関心だったり悩みが深く支援が必要となる、自身の「子ども観」、保育の方法、背景となる“家庭での生活”をとらえなおしよりよい支援の在り方を考察する。さらに、グループ毎に人とのかかわりが難しい子どもの家庭への支援のあり方について考えた結果をスライドにまとめ、プレゼンテーションを行う。(目標(1)-④,(2)-①,②)
- 第12回：園、家庭、地域の生活と人とのかかわり
園における環境・生活体験・時間をもたらす人とのかかわりについて理解を深める。また、子どもの成長に大切な家庭生活、家庭生活のなかでの家族とのかかわり、子どもと家族をつなぐコミュニケーションについても支援の在り方を探る。さらに、家族と地域の人とのつながり・日常生活における子どもと地域の人とのかかわり・子どもの成長を支える地域の人との交流をコーディネートする役割の重要性を理解する。最後に、園、家庭、地域とのつながりがもたらす人とのかかわりの事例を収集し、スライドにまとめ、プレゼンテーションを行う。(目標(1)-②,(2)-①,②)

	<p>②)</p> <p>第13回：領域「人間関係」を育むための保育実践① 3歳未満児の発達段階における人とかかわりを豊かにするための保育の実践力を身に付ける。具体的には、学生自らが指導案を作成し、模擬保育を行い、振り返りを行う。(目標(2)-①,③,④,⑤)</p> <p>第14回：領域「人間関係」を育むための保育実践② 3歳以上児の発達段階における人とかかわりを豊かにするための保育の実践力を身に付ける。具体的には、学生自らが指導案を作成し、模擬保育を行い、振り返りを行う。(目標(2)-①,③,④,⑤)</p> <p>第15回：全体総括 期末試験</p>
学生に対する評価	<p>講義と討論への積極参加(提出物・グループワーク等)20%・発表20%・期末試験60%</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容についてプリントで再確認しておく。また、これまで配布したプリントを再読し、理解を深め、不明点は質問する。 ・講義を受けて、レポート課題があるときには必ず次回の授業で提出すること。 ・講義で使った資料やノートのファイル管理を徹底すること。 ・講義で使用したテキスト箇所を必ず復習しておくこと。
テキスト	<p>汐見稔幸・大豆生田啓友監修(2022)『アクティベート保育学08 保育内容 人間関係』ミネルヴァ書房</p>
参考書・参考資料等	<p>厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館</p> <p>文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館</p> <p>なお適宜資料を配付する。</p>
担当者からのメッセージ	<p>積極的に授業に参加する中で、子どもの育ちの豊かさや子どもの育ちを支える保育の面白さに触れ、子どもへの関心や保育の理解が深まることを期待します。</p>
オフィスアワー	<p>授業の前後の時間(メール等でアポイントを取ること)</p>